

<新刊紹介>西野春雄著 『謡曲百番』

山木, ユリ / ヤマキ, ユリ

(出版者 / Publisher)

法政大学国文学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

59

(開始ページ / Start Page)

102

(終了ページ / End Page)

103

(発行年 / Year)

1999-03-24

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00020058>

西野春雄著

『謠曲百番』

山木 ユリ

待望の『謠曲百番』が刊行された。今や能は、日本の古典芸能という枠だけでは納まりきれない、世界の演劇界に開かれた窓を持つようになった。世阿弥の掲げた芸能の理想——「寿福増長」、「衆人愛敬」は、時と所と人を超えてひろがり普遍性を持つようになった。演能面、学術面に於ても斬新な研究が総合的、意欲的に展開されている。本書はこうした成果を視野に入れつつ、大きな意味で、能を詩劇として捉え、曲想とその展開や語句の上に能の本質を追究、実証し、能楽研究の上にも鑑賞の上にも新しい道標を提示している。

本書を概観すれば、まず、底本は校注者架蔵の由緒ある新資料『寛永七年黒沢源大郎刊観世黒雪正本』である。本文を

ば、段と小段とに分け、洗練されたことばで脚注を付す。その前にわかりやすい「小段解説一覽」を置いて、本文への導入とする。巻末には、能舞台、能面、衣装の図録、及び「用語一覽」、「古今曲名一覽」を付して全体を見渡し、さらに「解説」として、(一)能と劇と音楽の出会い (二)謠曲が描く世界 (三)近世における謠曲(四)詩としての謠曲、の四項目に三十五頁をあて、新鮮な筆致で能本概説が披瀝される。最後に「二十一世紀も間近い今、幅広い多くの観客に愛され、演者と観客との共鳴によって完成する能(謠曲)が着実な発展を遂げてゆくためにも、将来、批評活動が活発になることを期待したい。」と、能発展への看過できない課題の提示で結んでいる。

さて、内容上の大きな特色は、校注者の一貫した視点によって、その詩性と文学性を伝え、「日本のリリカルドラマ」としての謠曲文学の豊かな世界へと読者を誘い込む周到な工夫がなされていることである。

まず、各曲の冒頭では曲趣解説に一頁をあてる。場景の中に面、装束をつけた

人物が登場し、物語の梗概が示され、その内容は、本文読解の興味へと導く仕組みになっている。

ことに「素材・主題」の項は随所に新見が光り魅力がある。もとより、現在の研究成果は見事に凝縮され、典拠、作者考定など考証的なことから、構造論、修辭論、韻律論、作劇法に及んでいる。こうした巾広く新鮮な視野はつねに一曲の主題の中に収斂され、味わい深い言葉で詩趣の漂いを、あるいは一曲を貫ぬくドラマツルギーを明らかにする。一例をあげれば、俊寛が、「最後に舟から見放された時」、「寒蟬枯木……の登場歌」(「五燈会元」よりの引用)は、「現実のものとなる」(傍点筆者)という、この指摘。この一句が真に謠えなければ「俊寛」は演じられないといっても過言ではない一曲の鍵語をば俊寛の形象として、劇語として、新しいのちを与えている。ここに著者の詩人としての眼がある。あるいは「実盛」では、井上ひさし作『頭痛肩こり樋口一葉』との手法の一致を取り上げているあたり、著者の自由な思考がほほえましい。

いよいよ本文に入れば、その下段には、主題に導かれた一曲の構想が舞台展開として明示される窓見出しを設け、脚注にまた苦心が伺える。言葉を選びぬいた簡潔な語釈、文献の引用、克明な修辞上の説明、詞章の異同、演出に関する指摘、他曲との類似、ことに廃曲に目が届いている点が注目される。用語法の考察から作者の推定さらには確定にも及ぶ。かくして著者の能に関する広く深い問題意識がそのまま脚注を生かしていることに気づく。

こうした多岐に互る問題意識の提示は、能の劇性のもとより、詩性、文学性、さらには音楽性を明らかにし、謡曲を読む喜びを伝えると共に、読者にさまざまな刺戟を与え続けることであろう。

(やまき ゆり・能楽研究家)

▽一九九八年三月・岩波書店

四七〇〇円

△著者〓法政大学能楽研究所所長。一九六六年卒

名簿作成について

「国文学会会員名簿」(一九八八年発行)を補正・追加する作業の、進捗状況を御報告します。大学の総務部が把握している住所録から、日本文学科の卒業生五千余人に宛てて調査カードを発送したのは、丁度一年前の三月のことです。この十年間で個人情報に関する意識は大きく変わり、大学側からも卒業生名簿の開示は認められず、宛名シールを借り出した上での発送でした。そしてカードは、千八百通の返信を頂き、国文学会の運営大変ありがたい最新の情報を得ることが出来ました。しかしそれでも、電話や職業の公表を拒否される何通もの御意見がありました。

そこで、九八年七月の国文学会総会で報告しましたように、情報はすべてパソコンに入力してデータベースを作ること第一の仕事にし、印刷は次の段階にする、と軌道修正をいたしました。現在、

その打ち込みがほぼ完了した段階です。八八年度の会員名簿をもとに、五千余人の住所と千八百人の電話・職業などすべてのデータの打ち込みは大変な作業でしたが、就任間もない小秋元先生の指導のもと、大学院生数名の協力を得て、和田君とでここまで漕ぎ着けました。

この先、大学院卒業生や通教会員を加えた後、印刷は氏名と卒業年と住所のみとする方針です。昨年の返信で名簿購入を希望された方には、改めて、値段が確定してから購入の有無をお尋ねしますの、どうぞよろしく願います。

(天野 紀代子)